

第3回 伊山 修 氏



- 講演者: 伊山 修 氏 (東京大学)
 - 題目: 団代数と傾理論
 - 日時: 2022年 7月 6日 (Wed) 16:30 ~ 17:30
 - 場所: 数学科セミナー室 (4号館3階) および zoom 中継 (詳細は後日掲載)

[seminar, 2022, new](#)

abstract

今世紀初頭に導入された団代数 (cluster algebra) は、帰納的に定義される団変数と呼ばれるローラン多項式で生成される可換環であり、与えられた簀 (quiver) から新しい簀を構成する変異 (mutation) と呼ばれる組み合わせ論的操作を用いて定められる。一方、環の加群圏の同値を扱う森田理論の拡張である傾理論 (tilting theory) は、環の導来圏の同値を扱うものであり、簀の表現に対する鏡映関手の理論的基礎付けを与えるものである。傾理論では準傾対象 (silting object) と呼ばれる対象が重要であり、与えられた準傾対象から新しい準傾対象を構成する変異 (mutation) と呼ばれる圏論的操作が存在する。団代数の圏化 (categorification) は、傾理論を用いて団代数を調べるものであり、異なる文脈に現れた変異の間の直接的な関係を説明する。本講演では以上の事柄を例を挙げつつ説明する。

[<6>]

From:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/> - (旧)理工学部 数学科

Permanent link:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/seminar/2022/04?rev=1656427222>

Last update: **2022/06/28 23:40**

